

浮雲日記（1952）

メディア 映画

ジャンル ドラマ

製作国 日本

色彩 B&W

時間 97分

初公開日 1952/04/17

公開情報 東宝

【解説】

新聞に連載された富田常雄の同名小説を、松浦健郎が脚色しマキノ雅弘が監督。翌年には「続・浮雲日記」が公開された。

明治時代。九州から上京したばかりの春信介は、悪いポン引きにだまされ牛肉屋で無銭飲食の罪に問われるが、牛肉屋の娘のお龍に救われる。信介はその店で働くことになり、お龍との仲も深まっていった。しかし飛鳥山の花見で、江口男爵の令嬢である環を暴漢から助けたことから、男爵家の書生として招かれることになった。信介は大西周作という名の暴漢をねじ伏せたが、彼の信条には共感したのだった。環の想いを受け入れられず、信介は男爵家を解雇され、芸者となったお龍を再会。やがてお龍は信介の子供を身ごもるのだったが…。

【クレジット】

監督 マキノ雅弘

製作 本木荘二郎

原作 富田常雄

脚本 松浦健郎

撮影 山崎一雄

美術 北辰雄

音楽 鈴木静一

出演 重光彰

田崎潤

藤原釜足

森繁久弥

花柳小菊

三津田健

田中春男

宮城千賀子

若山セツ子